1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 3 月 27 日発行　SSKU　増刊通巻第 5734 号

NPO 法人わくわくかん
編集　〒115-0044
東京都北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-3337

http://www.wakuwakukan.net/

SSKU わくわくかん リボン便り

2017 年 4 月号　No.193

シャケ Zo くん

？？なぜリボン？？

生まれ変わった
再生したという意味の
（Reborn）。
新しく生まれ変わる
「便り」にしたくて、名付けました。

2 月 24 日、都庁第一庁舎の大会議場において、東京都と都精民協の主催により、「なぜ、自死の少ない街には立ち話をするひとが多いのか」という題目で、都精神保健福祉相談事業の講演会が行われました。

森川すいめいさんがユニークな講演

なぜ自死の少ない街には立ち話をする人が多いのか

人間関係で互恵的な関係性を築けるかがカギ

都精民協は都内で精神障がい者の相談・支援活動を行っている団体の連合体で、わくわくかんも事務局的な役割を担う等、深く関わっています。東京都と都精民協が主催する講演会は、毎年 1 回開かれているのですが、ここ何年かはわくわくかんと㈱ECA とで、準備や当日の運営等の裏方を担っています。

今年講師を務めてくださった森川すいめいさんは、精神科医であり、自殺未遂者に対する支援活動のほか、池袋をベースにホームレス状態の人々に対する支援活動を、長年にわたって精力的に行っている方です。ホームレス状態にある人の中には、精神的な疾患や精神障がいを抱えている人が相当に高い割合で含まれていて、森川さんは TENOHASHI、世界の医療団、べてぶくろ等の非営利組織に積極的に関わる中で、精神障がいを抱えたホームレス状態にある人々の支援を行っています。近年は住居の確保を行う団体や医療機関等と積極的に連携を行っていて、メディアへの登場も多く、日本の社会運動における中心のお一人と言ってよい方です。当日の講演会は、スタッフも含めて 200 名ほどの参加でした。

講演は、講師の語り口が非常にソフトで、大変分かりやすい内容でした。自殺についての調査の中で、通常の町と自殺が少ない町とを比較し、自殺の少ない町の特徴を色んな視角から捉える内容でした。人間関係において、どれだけ互恵的な関係が築けているのかがカギになるというものでした。つまり、互いに遠慮をせず、壁を作らずに「～しっぱなし」の関係を作っている町ほど、自殺が少ない環境を維持できるということでしょう。また、講演の途中に、新宿で聞いたホームレスを排除する路上放送について批判的に言及していたのですが、長年ホームレス支援活動をされていた方ならではという印象でした。講演会の後半では、聴衆がグループに分かれてワークショップ形式で議論する等、全体として非常に工夫されていて、大変興味深い講演会だったと思います。

当日までの講演会の準備については、わくわくかんの中でリボーンプロジェクトが中心となり、案内板の作成や資料印刷・封づめ等を行いました。当日の運営についても、ECA さんの方々と協力しつつ、会場設営や受付、音響・照明の調整、片付けなどの役割を行いました。リボーンの訓練生の方が多数手伝って下さり、当日の運営は相当スムーズに行えたのではないかと思います。森川さんの講演会が終わった後には、名刺交換など講師と挨拶をしたい方が列をなして並んでいて、全ての方と挨拶が終わるまでに 30 分ほどかかるほど、印象深い講演でした。

▼参加者の感想▼

☆話し方がゆっくりでとてもききやすかった。また自分が話す場を設けてくれて、改めて自分の考えを整理することができた。いい意味で肩の力が抜けたような感じがした。先生の会場の場をあたためる力がすごいと思った。

☆「助けっぱなし・もらいっぱなし」の話を聞き、普段支援職をしている為、いたずらに結果や見返りを求めているのがわかりました。それが自分自身苦しめていることにもなっていたが、気持ちの切りかえ含めて大切にしたい。

＜わくわくかん 4 月予定表＞

- ✧ 4 月 08 日（土）はたらっくす 16:00～（自立訓練室）
- ✧ 4 月 16 日（日）第二回社会事業所モデル事業検討会議 9:30～（赤羽会館）
- ✧ 4 月 24 日（月）現場協議会 16:30～（スカイブリッジ）
- ✧ 4 月 25 日（火）家族懇談会 16:00～（自立訓練室）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 3 月 27 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5734 号

わくわく配食サービス

就労継続支援 A 型事業
北区赤羽南 2-6-6
TEL：03-3598-0089
FAX：03-3598-0089

～たけのこのおかか和え～

【材料】4 人分
ゆでたけのこ―1/2 本
糸かつお――　15g
しょうゆ――大サジ 2
酒――――大サジ 1
みりん――――大サジ 1
だし汁(昆布、かつおなど)
――――適宜

【作り方】
① **たけのこは食べやすい大きさに切る。**
② **①をかぶるくらいのだし汁、しょうゆ、酒、みりんで煮る。**
③ **たけのこが煮あがったら、軽く汁気を切り、糸かつおをまぶす。**

♠たけのこはゆでる前に穂先を斜めに切り落とし､皮に縦1本切れ目を入れ、皮つきのまま米のとぎ汁、赤唐辛子 1～2 本と一緒にゆでます。ゆであがったら、ゆで汁につけたまま冷まし、皮をむきます。
♠家でゆでるのがたいへんな時は、八百屋さんなどでゆでたものを買ってきてもよいですね。

投稿

「変えられないもの」
歌詞をどこにでも通じるラブソングするほうがよさげ
作詞・作曲・歌・アレンジ（わくわく配食サービス）　桐谷

変えられないものは　君が好きなこと
この脳が　心臓が　いつも君を欲しがっている

少し自信は　もってたが
上には　上がいることを知った
追いつきたい　追い越したいと思った
時がたち　回りを見渡せば
いつの間にか　先駆者に　なっていた

やり直しがきかない　時間のなかで
一人で　試行錯誤の
作業がつづくけれど
ミスを一つづつ　削っていった
結果は後から　ついてきた

君が演じる　放物線は
世界中に　こだまする　歓喜の渦となって

一度は　頂点になれても
次もそうだとは　限らない
だから　常にもっと上を目指し
また再び　頂点を目指す
準備は　ぬかりなく

たとえ震えても　つぶれそうになっても
逃げ出したく　なったとしても
足はしっかり　地面にくっつけて
良いプレッシャーで　最高の演技で

君が演じる　ラージスピンは
世界中に　こだまする　歓喜の渦となって

変えられないものは　君が好きなこと
この脳が　心臓が　いつも君を欲しがっている

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 3 月 27 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5734 号

自立訓練（生活訓練）事業 ボランティア響会

通称 響（ひびき）

〒114-0032　北区中十条 1-2-18
北区障害者福祉センター4F
TEL 03-5963-6888

＜外出報告！＞

サンシャイン水族館にお出掛け♡

春一番が吹き荒れた日、ひびきのメンバーで池袋へ行きました。現地について、まずは腹ごしらえ。２つのグループに分かれて、おもいおもいのランチを食べてお腹一杯になったところで水族館へ。入館したタイミングが良くて、あしかショーを見ることが出来ました。最初のテーマが『深海に住む生き物』と言う事で、大きなカニや珍しい魚を見ながら進んで行き、大きな水槽の前では、魚と一緒に泳ぐスタッフさんと説明するスタッフさんによる楽しい説明を受けました。クラゲコーナーやジャングル等の地域別の水槽を興味津々になりながら見て回りました。最後の仕上げに、館内のカフェで『期間限定スイーツを』とスタッフⒶさんは意気込んでいたのですが、ちょっとしたトラブルでおあずけとなり、残念そうでしたが、色々見聞きできて楽しい時間を過ごす事が出来て良かったです。

≪SST リニューアル!!≫

これまでは、順番の決まったテーマに沿って行われていましたが、今度は、ひびきのメンバーからのアンケートを基にして、テーマが決まるようになりました。リニューアル後の 1 回目は、「初対面の人と話す」二回目は、「話しかけるタイミング」、です。そして『SST　チャレンジカード』が新しく作られました。その日のテーマの内容やポイントをメンバー自身で記入し、次回 SST までにテーマに元づいた実践報告を「宿題」として提出するようになりました。メンバーが困っている事や解決したい事をリアルタイムでトレーニングできる、より実践的なプログラムになりました。3 回目のテーマは「話を打ち切る」に決まりました。話している相手のことを理解できていないと難しい、自分の気持ちの伝え方を練習したい、などの課題がありそうです。

㊐さんの似顔絵コーナー

この女性は誰でしょうか？
答えは来月号です！

3 月号の答え

正解は新横綱の
稀勢の里でした。

３月末でひびきを卒業される㊐さんに、ひびきでの思い出についてインタビューをしました。

●ひびきで一番楽しかったプログラムは何ですか？
音　　楽…いろんな曲が聞けるから。
クッキング…おいしい物が食べられるから。プログラムで学んだメニューを自宅で 3 回くらい作った。肉どうふがおいしかった。

●ひびきでの思い出を教えて下さい。
ディズニーランドへ行った事。
スタッフの U さんが退しょくした。
友達がいっぱいできた事。

●ひびきのプログラムで大変だったことは何ですか？
リズム体操で RYUSEI とパーフェクトヒューマンのふりつけを覚えるのが大変だった。

●OB になった後、土曜日の地域交流日には来られますか？
午前中だけ出る（未定）

ーこの春やってみたい事ー

ひびきのメンバーの皆さんに
この春にやってみたいことを聞いてみました！

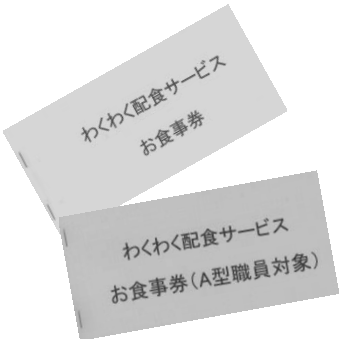
・昨年は部屋のカーテンを洗ったので、今年の春は他の部屋のいらない洋服や、小物の片付けをしたいです。（T.H）・「やってみたい事」というより「やる事」。引越し。（K.F）・花見（飛鳥山周辺）（気分が良くなるから）（I.H）・プラモデル作り　体調が良くなりそうだから（O.K）・今年も桜の写真を撮りに行きたい　パステルカラーの服を着て出掛けたい　夏に向けて本格的にダイエット！（Y.S）・植物観賞…季節の草花を見て春を感じたいです。（Y.O）・桜の木の下で、桜もちを食べる（T.K）・花の咲いた桜並木を散歩する（T.K）・お花見（A.K）・今年の冬で卒業するから、色々なことをこくふくしたくて、自分探しをする（S.N）・ボーリング大会　お花見（前の時出てなかったので）（S.W）・桜が咲く頃になると、帝京病院近くの川がきれいに咲いているので、ミニ散歩で行きたい。（M.O）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 3 月 27 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5734 号

就労移行支援事業

リボーンプロジェクト

〒114-0032　東京都北区中十条 1－2－18
北区障害者福祉センター４F　Tel：03-5963-6888



小口現金やチケット代管理

プログラム紹介「会計処理」

水曜日午前の会計処理では、現金の支払・収納処理や伝票の起票等、経理の模擬体験をしています。実践的な例題を解いて実力をつける時間もあります。

リボーンプロジェクトでは現在、３つの会計を管理しています。１つ目は小口現金で、本部から預かった小口現金の中から、訓練生やスタッフがプログラムの中で使った交通費、事務用品や消耗品の購入、郵送物の送料、作業手当の支払等や、受託業務の委託料、販売イベントの売上金の集計・収納、現金出納帳へのデータ入力等を行ないます。２つ目は訓練生が昼食注文時に支払う、わくわく配食サービスの昼食代の管理です。３つ目は休憩室に設置してある喫茶コーナーの各種粉末飲料の売上金集計です。３つの会計は全て金額の相違が無いよう、帳簿上の計算金額と実際の現金とを確認し、もし１円でもずれがあった場合には、徹底した原因究明と正しい処理を行ないます。

毎週水曜に帳簿と現金を確認

実際の現金を扱っているため、経理の模擬体験とはいえ緊張感を伴います。また、伝票の起票や明細書の仕上げ・封入等、ビジネスマナーや手作業を求められる事も多いため、より実践的に就職に向けたスキルアップを図ることができる講座プログラムです。

実際の受講生の方から

★経理職を希望していたので、会計処理で実務に近いことができるから受けたいと考えて受けました。特にスタッフの K さんはすごく丁寧で慣れていて安心です。会計処理では、正確な処理を心がけております。数字や勘定科目を書く際に、行の 2/3 程度の大きさで書いています。また、現金を数える際も、慎重に数え、紛失などは絶対無いようにしています。実際有高と帳簿残高が一致したときはやりがいを感じます。起票が苦手（小さく数字や文字が書けませんでした）でしたが、今は以前と比べて成長がありました。会計処理の講座は、**経理関係の仕事を希望している方にお勧めです。簿記の資格などを並行して狙ってもよいかと思います。**（ユキ）

★簿記の勉強をしているので、会計処理を受けようと思いました。お金を間違えないように、気を付けています。お金を処理した後に、金額が合うとすっきりします。**簿記の勉強をしている方、お金の動きに興味のある方は、ぜひ受けてみて下さい。**（つなまよ）

★日常会計というものはとても重要で、**自立した社会生活には絶対必要**だと思います。会計処理を実際に受けてみて、スタッフの方々の丁寧かつ熱心で専門的な指導が、とても良いと感じられます。会計処理では、現金が不一致の場合、個人的なお金ではなく、公的なものとの判断で、真剣な業務を常に心がけています。どんな状況においても、スタッフ・訓練生チームワークよく対応できることにやりがいを感じています。ぜひ**自立した社会生活をする点において、できるだけ多くの人に受けていただければと思います。**最後に、いつもスタッフや同席の人に感謝しております。（エンジェルハート）

★会計処理に興味があったので、受講してみたいと思いました。振替伝票・金種表を作成し、現金出納帳にデータを入力することで、リボーンの取引でのお金の流れが、一部だけ理解できたように思います。振替伝票と金種表はボールペンでの記入になるので、誤字には特に注意します。それでも間違うときはあるので、記入する際には修正するためのスペースを空けて書きます。楽しいことは、課題に出される取引の仕訳を解いているときです。また、現金とデータが合わなかったとき、原因を見つけて修正し、一致したときも楽しいです。振替伝票と金種表の作成手順、取引の仕訳方法などを知ることもできたと思います。プログラムの流れとしては、最初に担当のスタッフから会計処理の大まかな内容が説明されます。また、振替伝票・金種表の作成、残金の確認や現金出納帳へのデータ入力は、スタッフと訓練生の共同作業という形で行われます。**分からないところ、不安なところがあれば、質問することも可能**です。そのため、**これまで会計処理に関わったことがない初心者の方であっても、受講しやすいのではないか**と思います。自分は初心者でしたが、この「会計処理」プログラムを受講したことで、**会計処理の内容と流れが、少しだけかもしれませんが、理解できたように思います。**その理解を深めるためにも、「会計処理」プログラムは、続けられるうちは続けていきたいです。（Nameless）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 3 月 27 日発行　SSKU　増刊通巻第 5734 号

わくわくかん　家族懇談会の一年を振り返って

わくわくかん家族懇談会は2016年度で7年目を迎え、3月で今年度の開催が全て終了いたしました。

今年度は、就労されている障がい当事者の方にお越しいただき、病気や生活、仕事の体験談を語っていただく機会を多く設けました。体験談を聞き、当事者の方の苦労に大変共感されていました。そしてご家族が抱える不安や疑問を、その場で障がい当事者の方にお聞きすることができました。病気になられて間もない方のご家族も来られ、福祉サービスや障害年金などの情報を初めて聞く方という方もいらっしゃいました。特に「親亡き後の備え」について、興味深く聞いていらっしゃいました。

親御さんが亡くなられた後に、交流のなかった兄弟姉妹が急に協力し合うことは難しく、日ごろから家族同士の意思疎通を図っておくことが大切であることを確認しました。また、身近な職員と信頼関係を築き、普段から相談先を持っておくこと、普段から少しでも家事に参加することも重要であるという話が出ました。12 月の懇談会では、ざっくばらんにご家族の接し方や体験談、心配事をお話頂き、予定時間を過ぎる程お話が弾んでいました。性格傾向を知るための「エゴグラム」を実施した際には、「当たっている」「自分の傾向が分かった。接し方の参考にしたい」など感想が聞かれました。

実施	テーマ
５月	当事者が語る①（統合失調症）
６月	親亡き後について①（成年後見制度）
７月	当事者が語る②（発達障害）
８月	障がい者就労について①~現状と見通し~
９月	自分を知るために~性格傾向を知ろう~
１０月	住まいについて~グループホーム~
１１月	当事者が語る③（統合失調症）
１２月	わくわくかん懇談会
１月	親亡き後について②(障害年金・精神保健福祉手帳等)
２月	当事者が語る③（うつ病）
３月	障がい者就労について②

当事者の病気・生活・仕事の体験を聞く

家族懇談会はご家族が情報を得る機会であることの他に、ご家族同士の交流の場、情報交換の場でもあります。何度か参加されるうちに、顔なじみになられ、ご家族同士のつながりが深くなっていらっしゃるように思います。わくわくかんを利用されている方同士の交流は多いものの、ご家族間の交流の機会は意外と少なく、一人で悩みを抱えがちです。

ぜひ、2017 年度も家族懇談会に参加して頂き、多くのことを語り合えれば思います。2017 年度も皆様のご参加をお待ちしております。

---

3 月はたらっくす報告

3 月のはたらっくすは 11 日（土）にわくわくかんで開かれ、4 人の参加でした。今回、メンバーの要望で初めて 10 分間の休憩を入れました。生活の中でも様々なハードルがある中でも仕事を頑張っている方、求職中で張り切っている方等の参加がありました。

最近、感じているのは「働くというのは極普通の事だ」という事です。仲間の中には「就労が最終目的ではない」と公言する人もいます。それは確かにそうで「活き活きと生きがいを持って毎日生きられれば」良い訳です。「働く」という事は決して大げさでなくて、世の中の皆がしている「普通の事だ」と思います。なので、わくわくかんの資源の卒業者の方々にも、まずは「働けるか」という視点で対応をして欲しいと思います。折角の北区障害者就労支援センターのわくわくかんです。次回のはたらっくすは、わくわくかんで 4 月 8 日（土）の 16～18 時です。働いている方と働きたい方が対象の就労ミーティングです。

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 3 月 27 日発行　SSKU　増刊通巻第 5734 号

2017 年３月 11 日、12 日に共同連若手研修に参加してきました。名古屋にありますNPO 法人わっぱの会の生涯活動センターわっぱーれやまぐちにて行われ、北は北海道、南は熊本から 32 名の仲間が集まりました。

共同連若手研修会の報告

１日目は「障害者と社会」と題し、社会の中で障がい者がどのように生きてきたのかを勉強しました。

まず初めに、障がい者運動の歴史を知るため、2016 年１月 16 日に NHK で放送された「障害者福祉　共に暮らせる社会を求めて」を鑑賞しました。いつの時代も政府を動かすには大きなエネルギーが必要です。それを成し遂げてきたたくさんの人達の努力があって今の社会があるのだと改めて確認しました。

次に、自立生活センターメインストリーム協会から鍛冶克也さんにお越しいただき、障がい当事者からみた社会のお話をしていただきました。鍛冶さんは小学校から高校まで普通学校に通われました。友人たちは他の子と変わらずに接していましたが、就職活動の面接で障がいを理由に断られたことで初めて、自分が障がい者であるという事を実感したという経験をお話しされました。また、鍛冶さんはご自分のことを「障がい者をより身近に感じてもらうための活動家」であり、「障がい者のイメージを変えるための PR 活動（講演活動）が仕事」であると話しました。「知らない」ということは不安や恐怖、戸惑いの感情を持ってしまいます。鍛冶さんは小学校にも多く講演に行かれるとのことですが、小さい頃から障がいのある方と接することで正しい理解がすすんでいくと考えます。

最後に、少人数に分かれて相模原事件についてディスカッションを行いました。障がい者に対する偏見の意識を持っているのは、この事件の犯人だけではありません。私のグループでは、そのような方たちに、どのようにして、ともに生きていこうと伝えたら良いのだろうかと話し合いました。結論は出ませんでしたが、先にお話しして下さった鍛冶さんのように、私たちも社会に対して自分たちの活動を PR することが必要なのではないかと考えました。

２日目は「自分たちの活動と共同連運動」と題し、ともに生きる社会づくりのため、自分たちにどのようなことができるのかを考えました。

まず初めに、少人数のグループに分かれて、自分たちの活動を紹介しました。ほかの団体からは、例えば市立病院、生活協同組合、シルバー人材センターなど他機関からの協力を得て仕事をしていたり、同業他社との住み分けを上手く行っていたりと、経営努力を強く感じました。他機関とつながるということが、地域で生きているという思いになり、事業所の経営がしっかりしていることで、安心して働くことができ、安定した収入が得られます。住み慣れた地域で収入を得て暮らすということは多くの方の望む生活ではないでしょうか。

自分たちの活動を社会に発信しよう

次に、共同連事務局長の斎藤縣三さんにお越しいただき、「共同連運動のこれまで、これから」とのテーマで、共同連と日本社会、そして世界の動向をお話ししていただきました。これまでは、「障がいのある人もない人もともに生きる社会」を目指して運動してきましたが、これからは障がいに限らず、社会的弱者へと拡げて考えなければいけないとのことでした。

社会のためにできることは何か、自分たちの活動は社会とどう関わっているのか、忙しい毎日の中で忘れることなく、業務にあたりたいと思います。（T・M）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 3 月 27 日発行　　SSKU　　増刊通巻第 5734 号

共同連　第２回社会的事業所モデル事業検討会議

4 月から就労継続支援 A 型事業の厳しい基準改正により現場には様々な混乱が予想されます。しかし厚労省の無責任さを批判するだけでなく、悪しき A 型をなくすためにもしっかりとした起業・仕事おこしが問われることになります。

共同連では、「共に働く場」を発展させるために、補助金に過度に頼らない事業展開をするためにこの社会的事業所モデル事業検討会議を立ち上げました。今回第 2 回の検討会議は第 1 回の確認に基づいた参考となる事業実践についての学習会をするということで開かれます。

【日時】2017 年 4 月 16 日（日）9：30～15：00
【場所】赤羽会館 3 階和室（東京都北区赤羽南 1-13-1）　ＴＥＬ：03-3901-8121
【内容】１．学習会「オニオン・キャラメリゼ」を開発した（株）プラスリジョンの取組み　福井佑実子さん
２．論議　・どのような事業展開を進めていくのか
・次回以降の進め方
【申込み】TEL052-916-5308　FAX052-386-7526

!!!!!過重労働解消で重点監督７割弱の事業場で法令違反!!!!!

厚生労働省は 3 月 13 日、2016 年度「過重労働解消キャンペーン」の重点監督の実施結果を公表した。

長時間の過重労働による過労死等に関する労働請求のあった事業場や、若者の「使い捨て」が疑われる事業場など、労働基準関係法令の違反が疑われる 7014 事業場に対して集中的に実施したもの。その結果、4711 事業場（67.2%）で労働基準関係法令違反を確認し、そのうち 2773 事業場（39.5%）で違法な時間外労働が認められてきたことから、事業場に対して、是正に向けた指導を行った。

違法な時間外労働が行なわれた事業場のうち、実績が最も長い労働者の時間数が 1 ヶ月当たり 100 時間を超えるものが 1196 事業場（43.1%）、月 150 時間を超えるものが 257 事業場（9.3%）、月 200 時間を超えるものが 52 事業場（1.9%）だった。

また、賃金不払残業があったものが 459 事業場（6.5%）、過重労働による健康障がい防止措置が未実施のものが 728 事業場（10.4%）となった。

トランプ米大統領が分断する世界経済　ー日本経済、破綻か再生かー

昨年 11 月、米国大統領選で過激な発言をしていたドナルド・トランプ氏が選ばれた。外国のこととはいえ、ショッキングだった。トランプ氏はメキシコとの間に壁を建築する、オバマケアの撤廃など様々な提案をしているが、中でも日本に打撃を与えかねないのは、経済問題だと考える。3 月 11 日、表記のタイトルで現代の理論社会フォーラムが主催したシンポジウムに参加した。トランプ登場で、先行きの見えない経済をいかに読み解いていくのか、様々な観点から報告を得ることができた。

水野和夫氏（法政大学）の話によると、トランプには、スティーブン・バノンの考え方が影響しているとしている。バノンの世界観は、上流階級と下流階級を区別し、その両者には通じる言葉すらないとして、格差社会を助長する考えであろう。統計から見ると、1973 年から勤続 15 年以上のフルタイム労働者の実質所得は減少傾向にある。また、昨年度の企業の営業利益は増加しているものの、家計における雇用者報酬は減少している。つまり、マルクスのいう「資本を持つもの」が搾取をする時代に逆戻りしてしまったことに他ならない。本来であれば、家計に流れるはずのお金が企業に内部留保されている現象は、ケインズの「貨幣愛」の観点から理解することができる。

コラージュ　H.T

須藤時仁氏（獨協大学）によれば、貨幣愛、つまり資本愛が強まると、銀行や中小企業、個人は安全志向に走る。それは内需低迷を引き起こし、市場が低成長状態となる。その結果、大企業への海外市場を重視する結果になり、さらに内需低迷を後押しするといった悪循環にはまってしまうという。この悪循環への処方箋として、高所得層から低所得層への所得移転・再分配を行うか、財政のマネタリゼーションを行うかといった策が挙げられたが、現段階では日銀の自己資本の額から考えれば、マネタリゼーションは難しいだろう。所得移転・再分配については、宮崎雅人氏（埼玉大学）の報告にあるように、弱者に冷たい日本人が、いかに所得移転・再分配に同意するかといった観点が重要であるとしている。

日本は、「働かざるもの食うべからず」といった思想が強いとされており、統計学的にも失業者・高齢者の自己責任を強調するものが他国と比べて多い。しかし、オーストリーの研究によれば、「再分配後のジニ係数」が高くなるほど、「中期的な経済成長率」は低くなり、持続的な経済成長が達成できなくなるとしている。所得格差が広がるほど、日本国内の経済成長が見込めなくなるということだ。そこで、誰もが受益者となるような共存型再分配への機転が必要であるとした。

（S・H）

1998 年 10 月 9 日第三種郵便物認可　（毎月 3 回 8 の日発行）
2017 年 3 月 27 日発行　SSKU　増刊通巻第 5734 号

投稿

日本の文豪たち～江戸川乱歩の場合～

日本には、とてもおすすめの文豪たちがいる。芥川龍之介や、江戸川乱歩、太宰治、谷崎潤一郎、織田作之助、中原中也、中島敦、国木田独歩、与謝野晶子、福沢諭吉、宮沢賢治、坂口安吾などなど。

その中でも特におすすめの文豪を１人紹介したいと思います。

10 年前からベタですが、おすすめは江戸川乱歩。作品には、有名な怪人二十面相などがある。大怪盗怪人二十面相と、名探偵明智小五郎と助手の小林少年の話。ちなみに簡単なあらすじは・・・。20 の違う顔を持っていると言われる変装名人であり、盗む際には予告状を送ることで新聞を賑わせている大怪盗怪人二十面相。二十面相は名探偵・明智小五郎やその助手・小林少年と対峙することになる。

物語とは、この江戸川乱歩に限らず、時を超えたｌｏｖｅｌｅｔｔｅｒであったり、教訓だったり、学習であったり、知識を増やして己を知ったり・・・・。そんな事も出来たりする。

なにも江戸川乱歩でなくてもいい。本を読むと言うのがいいんだろうなって思う。で、どうせ初めに読むなら、日本の偉大な文豪がいいと思って、おすすめしてみました。てへっ(笑)

と言う訳で、あたしのおすすめ江戸川乱歩「怪人二十面相」よろしければどうぞ。ちなみに、あたしの本への入口は、石田衣良さんの「池袋ウエストゲートパーク」って言う日本の文豪とは何の関りもない現代の作家さんでしたが・・・・。へへへ。(笑)　（リボーンプロジェクト　K.T）

就労支援センター北わくわくかん

登録者（2017 年２月末）660 名
就職者４名(清掃２名　事務職２名)

先月　ご協力いただいた皆様

・北区障害福祉課・北区健康推進部・北区社会福祉協議会・北区障害者福祉障害者センター・ハローワーク王子・池袋・東京障害者職業センター・東京都障がい者就業支援事業所の会・北区身体障害者協和会・北区聴覚障害者協会・東京都精神保健福祉家族会連合会・精神障害者地域生活支援とうきょう会議・東京都障がい者就業支援事業所の会・東京都精神障害者共同ホーム連絡会・東京都精神障害者団体連合会・公益社団法人日本てんかん協会東京支部・東京こころねっと・日本福祉教育専門学校・戸田中央看護専門学校・王子特別支援学校・東京しごと財団・町田の丘学園・㈱ECA 等

他、多くの方に協力いただきました。

グループホームわくわくかん

現在、男性２名・女性４名が入居中です。３月中旬に女性ホームで防災訓練を実施しました。入居メンバーが一同に顔を合わせたのはこの日が初めてです。昨年の秋頃に新規入居者が２名いたにも関わらず、そうなったのには訳があります。それは女性世話人が大勢の集まりが苦手なこと。皆が集まって間が持たなかったらどうしよう…、そんな事を不安に思うせいで、２ 人の歓迎会の提案があってもずっとウヤムヤに…。この日も、皆で楽しく過ごせるか不安で頭がいっぱい。そんな世話人をよそに、２階でお隣同士のＳさんとＮさんはお互い挨拶を交わしつつ、いつの間にか好きなアニメの話で盛り上がっている様子でした。

▼編集後記▼

わっぱの会が開いた「社会的事業所研究集会 in 名古屋」で金キソブさんが「原州」の共生社会経済を語られた。東京でも講演に先立ってソーシャルファームを進める炭谷茂済生会理事長をソウル宣言の会の若森代表と一緒に表敬訪問された。炭谷氏は「10 年前からホームレス・障害者・ひきこもりの若者の働く場として日本で 2000 のソーシャルファーム創りたいと言い続けている。韓国ではすでに 1500 ヵ所がつくられたと聞いて大変勇気づけられている。超党派でソーシャルファーム推進議連が創られ、田村元厚労大臣が代表、私は顧問だが、取りあえず理念法の段階だが臨時国会には法案がだせるようにしたい。本格的な法はこのような法制化が必要だとする議論が広がったその後になるし、そういう時代が必ず来る」と熱く語られた。

発行所　郵便番号 157-0073　東京都世田谷区砧 6-26-21　特定非営利活動法人障害者団体定期刊行物協会　定価 100 円(会費に含む)